

鹿児島大学 キャンパスマスタープラン 2015



Kagoshima University Campus Master Plan 2015

[ダイジェスト版]

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/campus.html>

キャンパスマスタープランの主旨と方針

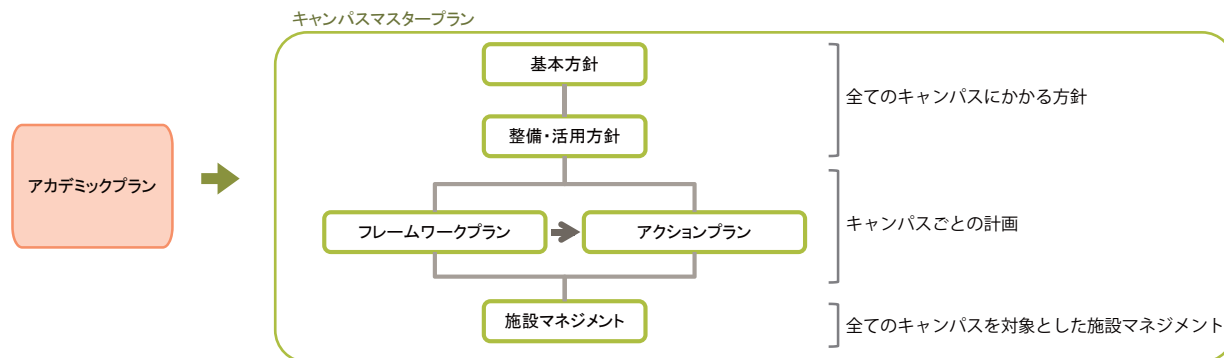
アカデミックプランを支えるキャンパスマスタープラン (本編 P.2)

キャンパスは、大学の顔、教育研究活動の基盤であるとともに、学生にとって学修の場、卒業生にとっては思い出の場となる。また、これから学ぼうとする人たちにとって魅力的であることが大切である。

キャンパスマスタープランは、キャンパス空間の計画目標であり、戦略的な施設・環境整備と管理・運営の拠り所となる指針である。

鹿児島大学のキャンパスマスタープランは、鹿児島大学憲章、中期目標に掲げられた基本理念や計画のもとで実践されるアカデミックプランを支えるため、キャンパス全体の環境整備とその運用の観点から、長期的な視野とともに、中期的な目標達成のための計画を策定するものである。

キャンパスマスタープランの構成 (本編 P.2)



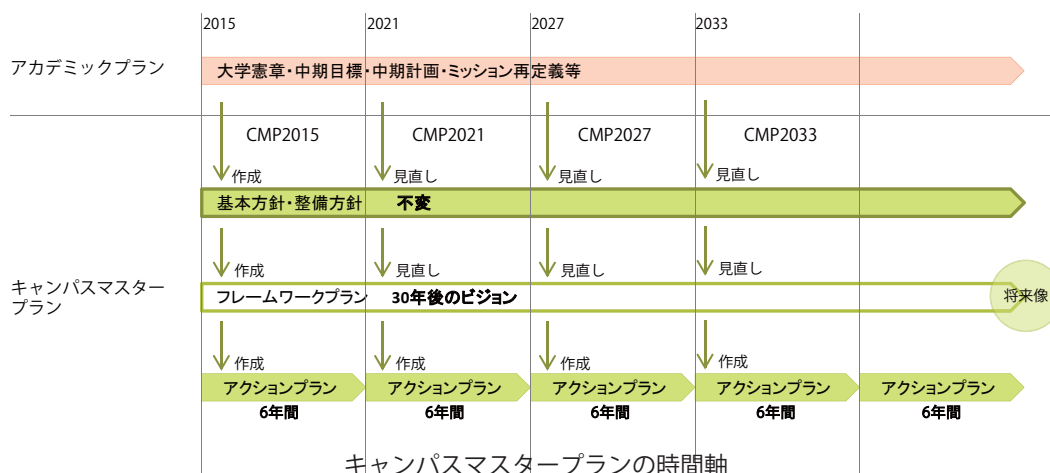
キャンパスマスタープランの構成

- ・基本方針…アカデミックプランの実現へ向けて、鹿児島大学の全てのキャンパスの目指すべき指針。
- ・整備・活用方針…基本方針を実現するための、キャンパス整備、施設・土地利用の具体的な方針。
- ・フレームワークプラン…上記方針とキャンパス毎の特性を踏まえ、それぞれのキャンパスの30年後の目指すべき将来像。
- ・アクションプラン…フレームワークプラン（30年後のビジョン）を見据えた上で、直近6年間で取り組む行動計画。
- ・施設マネジメント…計画実現のための資金計画、戦略的な整備、修繕計画、PDCA サイクル等の手法や体制。

キャンパスマスタープランの継続性 (本編 P.3)

キャンパス全体の整備は長期的視野に立ち、計画的かつ段階的に進めていく必要がある。

計画的なキャンパス整備を進めていくため、キャンパスマスタープランは進捗状況を確認・評価した上で、6年毎に策定・見直しを行う。



キャンパスマスタープランの時間軸

キャンパスマスタープランの目標 (本編 P.5)

「鹿児島の地から世界に挑むキャンパス」

- ・鹿児島の地とは、日本列島の南に位置し、アジアの諸地域に開かれ、海と火山と島々からなる豊かな自然環境に恵まれた地にある鹿児島大学を示す。
- ・鹿児島大学の基本理念の中核として掲げられている「進取の精神」・「進取の気風」の進取とは、自ら困難な課題に果敢に挑戦すること意味し、地域ひいては世界において多くの困難に果敢に挑戦する人材を育成する場として、世界に挑むキャンパスと表現した。

1. 進取の気風あふれる人材を輩出するキャンパス

鹿児島大学は学生の自主的な学びを促し、大学が一体となって教育力を発揮するためのキャンパスをつくり、自ら困難な課題に果敢に挑戦できる人材を育成する。

- 1-1. 新しい教育方法の導入により、教育の活性化を可能とする環境を整える。
- 1-2. 学生と教職員のコミュニケーションを高め、新たな発想とチャレンジ精神、豊かな人間性と倫理感を育む場をつくる。
- 1-3. 図書、学術資料、貴重な事物等の知的資源を整え、いつでもどこでもこれらの蓄積にアクセスできる情報基盤を整備する。



出会いを誘発する見通しの良い空間



情報発信の場



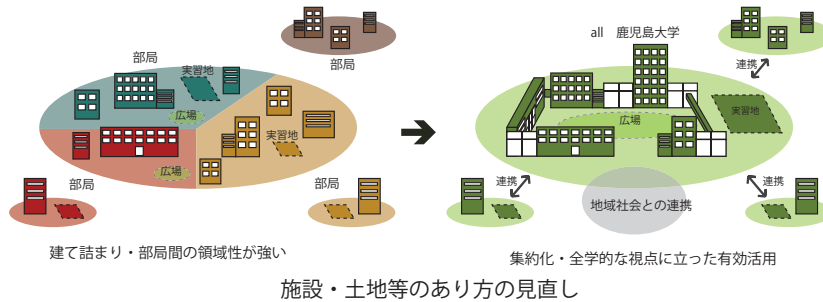
木陰とベンチ

交流を促す多様な空間

2. 多様でグローバルな学と知が行き交うキャンパス

鹿児島大学は組織の枠組みに捉われず、柔軟なキャンパスの有効活用と適切な施設整備を図り、様々な研究課題に対応する。

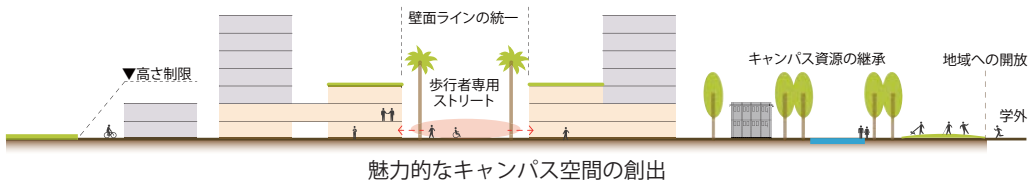
- 2-1. 施設・土地等の研究資源のあり方を見直し、学際・横断的領域、産学官連携に対応できる環境を整える。
- 2-2. 未知の分野・新領域に挑戦できる将来性のあるフィールドを確保する。
- 2-3. 国内外の研究者との共同研究や、幅広い交流、研究成果の発信に対応できる環境を整える。



3. 豊かな自然と伝統を踏まえ、地域とともに生きるキャンパス

鹿児島大学は魅力的で開かれたキャンパスを整備することにより、南九州の中核として地域と協働し、地域で求められる役割を果たす。

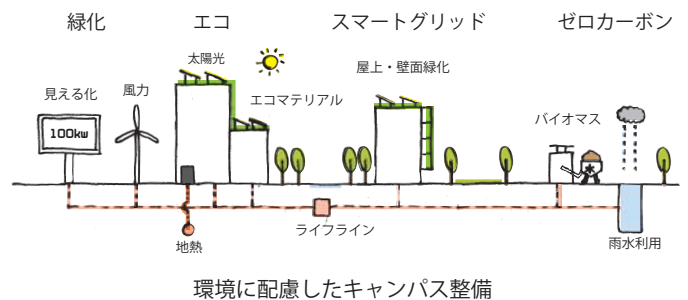
- 3-1. 特色ある教育研究活動を展開し、地域に根ざした連携の核となる環境を整える。
- 3-2. 多くの人を迎え入れる交流の場を設け、鹿児島大学の魅力を伝える存在感あるキャンパスを創出する。
- 3-3. キャンパスにおける安全、健康、防災、防犯、ユニバーサルデザイン、BCP（事業継続計画）等を重視し、地域に対する社会的責任を果たす。



4. 地球の鼓動を感じるキャンパス

鹿児島大学は日々の教育研究活動と地球環境との関わりを意識し、将来に亘って持続可能なキャンパスの整備と運用を図る。

- 4-1. 施設環境性能の向上やキャンパスの緑化を図ると共に、省エネルギー化、再生可能エネルギーの導入を推進する。
- 4-2. 将来の変化や自然災害等に対応する安定したライフラインを構築する。
- 4-3. 大学の持つ施設ストックを有効活用するための体制を構築し、施設マネジメントサイクルを運用する。



キャンパスフレームワークプラン

キャンパスマスタープラン基本方針、整備・活用方針と各キャンパスの特性や課題を踏まえ、30年後のそれぞれのキャンパスの将来像を示し、イメージの共有化を図る。

国、社会からの要請やニーズの変化に柔軟に対応するため、特定の建物像を示すのではなく、「周辺地域との連携」「骨格」「オープンスペース」「ゾーニング」においてキャンパスのフレームとしての考え方を定め、空間構成や土地利用のイメージを示す。

郡元キャンパス・フレームワークプラン (本編 P.49-52)



■ 周辺地域との連携

・周辺地域を「周辺地域交流ゾーン」「公共交通アクセスゾーン」「中心市街地ゾーン」「緑のつながり」と位置付け、連携に配慮。(詳細は本編 P49 参照)

■ 骨格

・郡元キャンパスの象徴的空間である北辰通り（南北軸）と西門から東門へ繋がるふれあい通り（東西軸）をキャンパスの主要動線として、キャンパス軸に位置づける。
 ・歩行者主体のキャンパスとするため、学生・教職員車両動線は必要最小限とする。
 ・屋外実習地南側から保存緑地にかけて、連続性のある緑地空間とする。

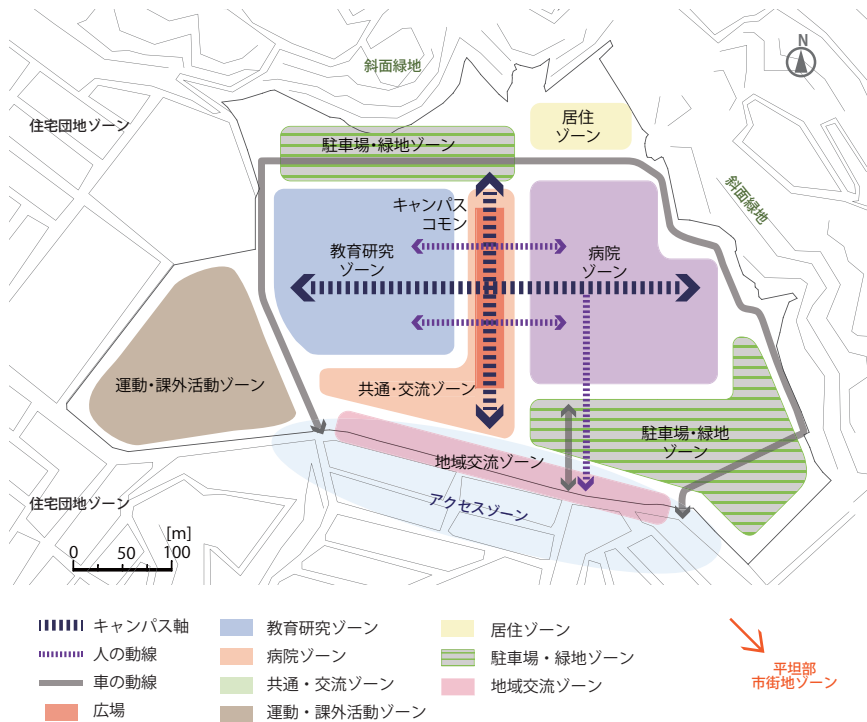
■ オープンスペース

・キャンパスの南北軸である北辰通りをキャンパスコモン（広場）として位置付ける。
 ・キャンパス内の学生・教職員車両の侵入を制限するため、駐車場は敷地境界周辺に集約して配置。駐車場ゾーンは積極的に緑化を図り、環境に配慮する。

■ ゾーニング

・教育研究ゾーン…既設の配置を継承しつつ、中高層化により機能集約・連携強化・建て詰まり解消を図る。隣接する住宅街や屋外実習地周辺は、日照に配慮した低層（実習）施設エリアを確保する。
 ・共通・交流ゾーン…キャンパスの中央に配置し、共同利用や交流機能を中央に集約することで、機能性の向上や交流を促す。
 ・屋外実習地・運動場ゾーン…既設の配置を継承しつつ、集約化を図る。
 ・附属学校・保存緑地ゾーン…既存の配置を継承する。
 ・駐車場・緑地ゾーン…キャンパス内の学生・教職員車両の侵入を制限するため、駐車場ゾーンを敷地境界周辺に集約して配置。駐車場ゾーンは積極的に緑化を図り、環境に配慮する。
 ・地域交流ゾーン…周辺地域交流ゾーンと公共交通アクセスゾーンに位置づけている東西側の敷地境界周辺に配置。

桜ヶ丘キャンパス・フレームワークプラン (本編 P.53-56)



■ 周辺地域との連携

・周辺地域を「アクセスゾーン」「住宅団地ゾーン」「平坦部市街地ゾーン」「斜面緑地」と位置付け、連携に配慮。(詳細は本編 P53 参照)

■ 骨格

- ・キャンパスの正面から南北に延びる南北軸と、それと直行する東西軸をキャンパスの主要動線としてキャンパス軸に位置づける。
- ・東西軸に沿って教育研究機能と病院機能の連携を強化する。
- ・車動線は周回道路を原則とし、キャンパス中央部の自動車の進入を制限する。また、病院用の車動線は患者さん等のアクセスに配慮して、病院前方からとする。

■ オープンスペース

- ・キャンパスの南北軸をキャンパスコモン(広場)として位置付ける。
- ・駐車場はキャンパス内の車の侵入を制限するため、周回道路沿いに集約して配置。

■ ゾーニング

- ・教育研究ゾーン…既設のゾーニングを継承しつつ中高層化による機能集約・連携強化・建て詰まり解消を図る。
- ・病院ゾーン…現在進行中の病院再開発の計画を踏まえ、病院機能を東側に集約し機能性向上を図る。
- ・共通・交流ゾーン…教育研究ゾーンと病院ゾーンをつなぐ中央に配置。また、学生・教職員の福利厚生・学生支援機能として地域交流ゾーンと教育研究ゾーンの間に配置。
- ・運動・課外活動ゾーン…現在の配置を継承しつつ、集約を図る。
- ・居住ゾーン…居住性やプライバシーに配慮し、北側に配置。
- ・駐車場・緑地ゾーン…キャンパス内の車の侵入を制限するため、周回道路沿いに集約して配置。駐車場ゾーンは積極的に緑化を図り、環境に配慮する。
- ・地域交流ゾーン…キャンパスの正面となる南側中央部を地域交流ゾーンとして位置付ける。車場ゾーンは積極的に緑化を図り、環境に配慮する。

下荒田キャンパス・フレームワークプラン (本編 P.57-59)

(本編 P.57-59)



■ 周辺地域との連携

・周辺地域を「広域交流ゾーン」「住宅団地ゾーン」「平坦部市街地ゾーン」と位置付け、連携に配慮。(詳細は本編 P57 参照)

■ 骨格

・従来の正門と利用度の高い通用門をつなぐ動線をキャンパス軸として位置付ける。

■ オープンスペース

- ・現在の正門前の広場を継承しつつ、通用門までの連続的なキャンパスコモン(広場)を展開する。
- ・駐車場はキャンパス内の車の侵入を制限するため、北側に集約して配置。駐車場ゾーンは積極的に緑化を図り、環境に配慮する。

■ ゾーニング

- ・教育研究ゾーン…既存の組織と未来の新組織からなる南北2つのゾーンで構成。新たな新領域用地確保のため、居住ゾーンは唐湊キャンパスへ集約。
- ・共通・交流ゾーン…キャンパスの中央に配置し、共同利用や交流機能を中央に集約する。
- ・駐車場・緑地ゾーン…キャンパス内の車の侵入を制限するため、北側に集約して配置。駐車場ゾーンは積極的に緑化を図り、環境に配慮する。
- ・地域交流ゾーン…新たなキャンパスの顔として、周辺公共施設との繋がりを意識した開かれたゾーン。
- ・地域交流ゾーン…キャンパスの正面となる南側中央部を地域交流ゾーンとして位置付ける。

■ アクションプラン策定の方針（本編 P.64-65）

キャンパスマスタープランの基本方針等及びフレームワークプランを見据えた上で具体的な短期的行動計画（6年間）として、アクションプランを策定する。

社会の要請や環境の変化によりアクションプランに明示していない計画を行う必要が出て来た場合、フレームワークプラン等に十分配慮し計画を行う。

■ 施設整備計画

- 整備の優先度については、中期目標・中期計画及び機能強化等、大学の戦略との関連性が高いものからとし、以下の事項にも考慮し計画を進める。
- 耐震性能が十分でない建物を優先的に改修し、機能劣化している場合は併せて機能改善も行う。
- 経年25年が経過した建物については、機能劣化している建物を対象に計画する。
- 未利用建物や活性度の低い建物については、用途の転用や活性度向上のための必要な改修を計画する。
- 文部科学省次期5か年計画の検討の方向性（一部抜粋）
 - ・安心・安全な教育研究環境の基盤の確保
 - ・大学の機能強化を活性化させる施設整備
 - ・教育研究の活性化を引き起こす老朽施設のリノベーション
 - ・継続的に医療等の変化へ対応していくための大学附属病院施設の整備
 - ・維持コスト削減を見据え保有面積抑制を意図した改築
 - ・多様な利用者が交流できる公共性のある施設整備
- 改築が必要な建物はフレームワークプランにより適切な配置を計画する。

■ 屋外環境整備計画

- 施設整備に合わせ、交流・憩いの場となる環境を整備する。

■ 交通計画

- 歩車分離の計画的実施
 - ・人・車・自転車の利用実態を把握し、交通計画や駐輪場の適切な位置・規模の検討を行い、学内の交通委員会に諮った上で、計画的に歩車分離を進める。

■ ライフライン整備計画

- 将来の変化に対応した柔軟な計画
 - ・整備した共同溝に、電力・情報通信・給水・消火設備等の基幹ライフラインを整備し、キャンパスにおける将来変化に柔軟に対応出来る供給を行う。
- 安全・安心な計画
 - ・学生・教職員をはじめ、地域住民の安全性確保を念頭に置いた災害に強い、安全で安心な環境の提供に繋がるライフライン整備を計画する。
- 環境負荷の低減
 - ・整備の際には、温室効果ガスの削減に努め経費縮減につながる省エネ設計を徹底する。

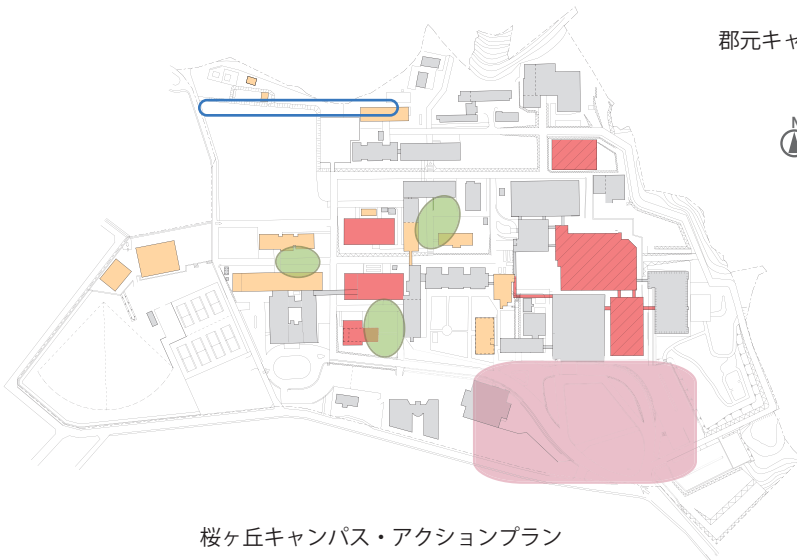
アクションプラン (本編 P.66-70)

- : 優先整備建物
- : 施設整備対象建物 (経年25年以上)
- : 屋外環境整備
- : 交通計画検討箇所
- : ライフライン整備

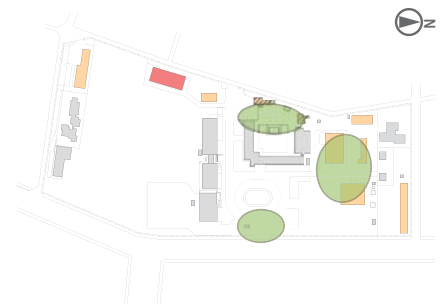
0 100 200 [m]
S=1/7500



郡元キャンパス・アクションプラン



桜ヶ丘キャンパス・アクションプラン



下荒田キャンパス・アクションプラン

施設マネジメント (本編 P.72-77)

本学におけるキャンパスや施設は教育・研究・医療・地域貢献等の活動に重要な基盤であり、その環境を常に良好な状態を保ちながら施設ストックを有効活用し効率的に施設の維持保全を行い施設の機能・環境を一定の水準以上に保つための施設マネジメントの視点を次に示す。

■ クオリティマネジメント

- ・ 施設建物カルテ等の整備
- ・ 施設満足度調査等の実施
- ・ キャンパスセキュリティの整備

■ スペースマネジメント

- ・ 「鹿児島大学における施設等の有効利用に関する規程」の点検・見直し、規定による施設有効活用の推進
- ・ データベースによる施設利用状況の一元管理

■ 環境マネジメント

- ・ エコ・ライフの実践
- ・ エコ体質への改善
- ・ エコ・チャレンジ
- ・ エコマテリアルの導入推進

■ コストマネジメント

- ・ 施設にかかるコストの平準化と適正な施設管理・運営に係る財源確保のシステムを構築
- ・ 運営コストの効率化
- ・ 施設整備費等の財源確保

■ 災害に強いキャンパス

- ・ 平時における災害への備え
- ・ 災害時における危機管理に対する対応



鹿児島大学
Kagoshima University

□ 編集・発行

国立大学法人鹿児島大学 施設部

〒890-8580 鹿児島市郡元1丁目21番24号

tel 099-285-7111(代表)

発行日 2015年4月